

会 議 記 録

会 議 名 称	令和 7 年度第 1 回秦野市通学路安全対策推進懇話会
日 時	令和 7 年 7 月 25 日（金） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分
場 所	秦野市役所教育庁舎 3 階 A 会議室
出 席 者	別紙「出席者一覧」のとおり
次 第	別紙「次第」のとおり

会議の内容は、次のとおりです。

事務局

<開会>

市立小中学校通学路の安全対策をより効果的なものにしていくため、令和 7 年度第 1 回秦野市通学路安全対策推進懇話会を開催させていただいた。

今年度は 3 名の方に新しい委員となっただいた。新たな視点からの御意見もいただきながら、子供たちの安全安心な通学路について考えていきたい。

<教育部長挨拶>

教育部長

委員の皆様にはご参加いただき感謝申し上げます。

来年の 9 月から、改正道路交通法施行令の施行により、生活道路の法定速度が時速 60km から 30km へ引き下げられる予定である。

交通事故防止のためには、運転者への意識付けのほか、市として、法改正の背景や時速 30km 以上で走行し、事故が発生した際に致死率が高まるということに関して、普及・啓発していくことも重要であると考えている。

本日は、この懇話会の目的等を説明させていただくほか、昨年度の通学路に係る対応状況や今年度の整備要望の状況等について、説明をさせていただく予定である。児童生徒の安全確保に当たり、皆様から忌憚のない御意見や御助言をいただきたい。

	<p><出席者紹介・事務局職員紹介></p> <p><座長選出></p>
事務局	<p>座長については、昨年度もお務めいただいた鈴木様にお願いしたいと考えているが、よろしいか。</p> <p>～異議なし～</p>
鈴木座長	<p><座長挨拶></p> <p>交通安全や事故分析を専門としており、特に自転車やキックボードについて、また生活道路における交通事故の分析を行っている。</p> <p>市内の児童生徒もこれから行動範囲が広がり、他の地区でも交通事故に遭わないための取組みが出来ればと思っている。皆さんの御意見をいただきながら進めていきたい。</p>
	<p><議題 1 ></p>
事務局	<p>～資料 1、1－1、1－2 について説明～</p>
宮川委員	<p>ここでは小中学校の説明はあるが、こども園や幼稚園の説明はない。こども園や幼稚園は対象としていないという理解でよいのか。</p>
事務局	<p>こども園や幼稚園は、保護者が送り迎えをし、通学路の設定もしていないと思うので、対象としていない。</p> <p>～その他意見なし～</p>
	<p><議題 2 ></p>
事務局	<p>～資料 2、2－1、2－2 について説明～</p>
宮川委員	<p>数年前にブロック塀の倒壊により、児童が犠牲となった事例があるが、秦野市では調査済みか。</p>
事務局	<p>防災部局で取りまとめを行っており、通学路については調査済みである。</p>
宇佐美委員	<p>歩行者横断指導線やカラー舗装されている場所に「徐行」等</p>

見上委員

の標示はしないのか。路面に文字が書いてあるとわかりやすく、運転者にも分かってもらいやすいと思う。また、イメージハンプも効果があると思う。

道路管理課

グリーンベルトがあると子どもたちに指導しやすい。施工して終わりではなく、経過や保護者等からの意見はどうかも含めて、子どもたちの安心安全のために対策してほしい。

「徐行」等の路面標示については、車両の速度抑制を目的として、例えば、カーブにドット線、「スピード落とせ」等の路面標示をし、運転者に注意喚起している。

また、イメージハンプについては横断歩道の手前等で、より幅員を狭く見せることでの速度抑制と考えている。本市では、カラー舗装により、車両への注意喚起を行っていることが多い。

鈴木座長

対策に関して自己評価はしているか。

道路管理課

歩行者横断指導線については、見守りをしている方々に効果について、意見を聞いた。

鈴木座長

歩行者横断指導線がある場所で、交通量や車両の速度調査を実施した結果、速度が落ちているという効果が見られた。

グリーンベルトは、分かりやすく、子どもたちが通る道として浸透してくればより良いと思う。

宇佐美委員

路面標示、文字については、研究されているか。運転者は文字のほうが気になると思う。

また、違反する車両が多い場所等に、路面標示で注意喚起してほしいと思うことがある。

鈴木座長

運転者からは看板は小さくて見ていないケースも有り得るため、路面標示のほうが見やすいことはある。

速度を出していると見えづらいが、施工のしやすさ等もあるため、看板を設置する場合は、シンプルにし、分かりやすくすることが必要である。

見上委員

自宅付近で違反する車両が多く、警察に相談したことがある。また、こういった通学路の安全対策について、委員になり、初めて知った。危険箇所のほうが優先されるのか。

事務局

こういった取り組みについて、保護者や子どもたちに伝わると良いし、見守りについても子どもたちが大きくなった時に、経験として思い出し、見守ってくれると良いと思う。

鈴木座長

進入禁止等の時間帯規制等については、学校や教育委員会で対応はできず、警察についても24時間取り締まりが出来るわけではない。運転者のモラルにも関わると思う。

事務局

路面標示については、警察等と連携し、検討していきたい。

この整備要望に係る一覧は、周知をしているのか。

学校とは情報を共有し、またホームページにも公開しているが、周知は課題と認識している。

見上委員

学校から要望のあった箇所について、危険な箇所のほうが優先であり、「秦野市通学路交通安全プログラム」で定めている要件の中で、危険度が高い箇所を提出してもらっている。

横山委員

学校で危険箇所を選定しているのか。

学校は地域の保護者、地区委員へ確認し、危険箇所の報告をしてもらっている。

鈴木座長

どのように危険箇所の要望を集めていくのかということも考えていかなければならない。

見上委員

多くの保護者が認知し、子どもたちにも伝わり、子どもたちからも危険箇所についての情報が出てくるとなおいと思う。

鈴木座長

学校との情報共有も含め、見守ってくれている方々の意見も吸い上げられると良い。

横山委員

グリーンベルトは、教員としても指導しやすく、また子どもたちにとっても歩きやすい。運転者目線で考えるとそこが通学路であることが分かった方が良い。歩行者と運転者双方に分かるよう、対策をしていただくと良いと思う。

また、合同点検実施箇所の選定基準に「児童生徒が関連する事故又はヒヤリハット事例が発生している」とあるが、事故が起きた場所の情報があれば、それを踏まえ、合同点検箇所として選定したほうが良いし、似た箇所を重点的に対策していった方が良いと思う。また、それらのことに関しては、学校とも情報を共有してほしい。

事務局

令和6年度の懇話会の中で、事故発生状況について分析し、お示ししている。また、子どもたちが事故に遭った場合、学校から学校教育課へ報告があるほか、くらし安心部から情報を入れてもらうこともある。

把握している事故については、整理をしており、対策のための一つの要素と捉えている。今年度第3回目の懇話会の中で、報告できればと考えており、合同点検実施箇所の選定についても、事故状況等も踏まえて選定していくことを検討していきたい。

鈴木座長

個人情報もあると思うが、具体的な場所等を共有してもらえると良い。

子どもの横断歩道の渡り方を研究したことがある。大人が赤信号を渡ると、子どもが真似をする。大人はタイミングを見計らって渡るが、子どもは安全確認をせずに渡ってしまう。信号を設置したからといって必ずしも安全というわけではない。道路を整備するだけでなく、交通ルールを理解してもらうことも重要である。

また、一般的に7歳の事故が多かったり、女の子よりも男の子のほうが事故に遭う傾向にある。登校時は登校班で1列に歩いているが、下校時は話しながら帰るため、事故が起きやすい。

継続要望は、昨年度対策できなかったために、再度要望があったものなのか。

事務局

昨年度、要望があったものの対策が出来なかったものに関して、再度要望があるものである。

横山委員

対策内容は把握しているが、地域の保護者へ整備要望の箇所を確認する際、その時点での危険箇所として、意見照会をしている関係から、対策済みのものや対策予定のものであっても、要望を受けることがある。

鈴木座長

グリーンベルトと同時に路側帯を新しく設置するケースがあるが、路側帯を広くし、車道を狭くすれば車両の速度は落ちると思うが、難しいか。

道路管理課	車道幅員は4メートルを確保しなければならない。狭くすると交互通行になってしまう。
見上委員	グリーンベルトの幅が狭い場所は、しっかりと1列に並んで歩く必要がある。グリーンベルトの幅を広くしてくれば、子どもたちも歩きやすい。
鈴木座長	車道幅員を狭くすると、一方通行となり、地域の合意形成が必要となる。
	～その他意見等なし～
	<議題3>
事務局	～資料3について説明～
見上委員	とても良い取り組みだと思う。今後、他の学校へ実施する予定はあるか。子どもたちには自分事として捉えてほしいが、伝わりづらい。
事務局	南地区の走行データが多く、今回は試験的に南小学校での実施となった。今後、他地区の走行データが多くなれば、検討していきたい。
鈴木座長	子どもたちは、自分で運転できないため、車の怖さが分からない。子どもたちが、運転者の目線で考えることは非常に新鮮で大切である。
事務局	子どもたちは、車が止まってくれると思い込んでいるケースもある。どこから車が出てくるのかという予測について学ぶことができたと思う。
鈴木座長	自転車に乗っているとスピードが出てしまい、飛び出しが多くなることがあるため、自転車に乗っているときでも予測しながら乗れるとよい。
事務局	授業後のアンケートで、自転車に乗る時も気をつけたいという意見もあった。
	～その他意見等なし～

事務局	<p><議題 4></p> <p>～資料 4、資料 5 について説明～</p>
見上委員	<p>見守りサポーター制度について、知らない保護者がたくさんいる。PTAは横断旗、地区委員はオレンジのベストを着用し、見守り活動をしている中、緑のベストを着ている方がいて、不安に思っている人もいた。</p>
事務局	<p>子どもたち含め、多くの方にこの制度が伝わると良い。活動をしている中、気付いたことがあった際、気軽に意見できるような機会はあった方がよい。</p> <p>見守りサポーター制度を立ち上げて約 3 年となる中、一つの区切りとして、今後のことを考えていきたいと思っている。教育委員会内でも引き続き検討していきたい。</p>
事務局	<p>～南小通学路に係る自治会からの要望について説明～</p>
鈴木座長	<p>歩道があるところは、交通量が多く、交通量が少ないところは、道が狭かったり、抜け道として使われたりする。通行規制はできるか。</p>
事務局	<p>通行規制は、警察等との協議及び地域住民の合意形成が必要であるほか、歩道整備については用地取得等、難易度は高い。危険箇所をなるべく通らないように通学路の見直しを検討していく必要も出てくると考えている。関係部署等で連携し、対策案を検討していきたい。</p>
宇佐美委員	<p>道路の拡幅や歩道の整備には多額の費用がかかるため、難しいと思う。法令等はあるが、時間帯通行規制が一番良いのではないかと思う。</p>
事務局	<p>歩道整備の予算については、建設部で予算確保することになるが、教育部が先導して進めていくべきという御意見もいただいている。</p> <p>関係部署等には通学路における要望として優先的に対応して</p>

見上委員

もらっている。

学校から半径300mや500mの範囲を重点的に整備するという
ことも一つの考え方としては良いと思うが、希望としては、全
ての児童生徒が等しく安全な対策であってほしい。

鈴木座長

学校の近くであれば子どもの数が多くなるため、車として
は、注意をしながら走行する。一方で、学校から遠く、子ども
が少ないと見落としてしまう危険性もある。

車両への注意喚起と合わせて、子どもたちが一人でも多く、
自然と交通ルールを守るような工夫も必要だと思う。

地域安全課

～自転車ヘルメット購入費補助金及びヘルメット着用率につ
いて説明～

宮川委員

学校には周知しているのか。

地域安全課

各学校に周知しており、交通安全教室も実施している。

事務局

本市では、一部の中学校で自転車通学が認められており、多
くの生徒が着用するよう、既定のヘルメットに限らず、気に入
ったものを被ることも可能にした。中学校卒業後も自転車に乗
る際は、ヘルメットをしっかりと着用してもらいたいと考えてい
る。

通勤で駅を利用する自転車の方は、ヘルメットの保管場所等
の課題があり、ヘルメットの着用率はまだまだ低い。

宇佐美委員

補助金について知らない人がまだ多い。周知の方法を検討し
てほしい。

鈴木座長

交通安全とは違った場所、機会で周知するのも良いと思う。

～その他意見等なし～

事務局

<閉会>